シリーズ 空き家探訪記

5軒に1軒が空き家といわれる生野区。戦時中、空襲の被害が少なかった生野区は、今でも戦前の家屋が数多く残っている地域です。風変わりな間取りや、増改築の跡、美しい建具等々、一軒一軒異なる個性をもつそれらの物件には、現代の建売住宅にはない魅力があります。「シリーズ・空き家探訪記」では、様々な人と生野の空き家との出会いを取り上げ、それぞれの暮らしと間取りを重ね、理想の住まいを思い描きます。

第7回

大阪市立デザイン教育研究所

1年　弓場 羽唯

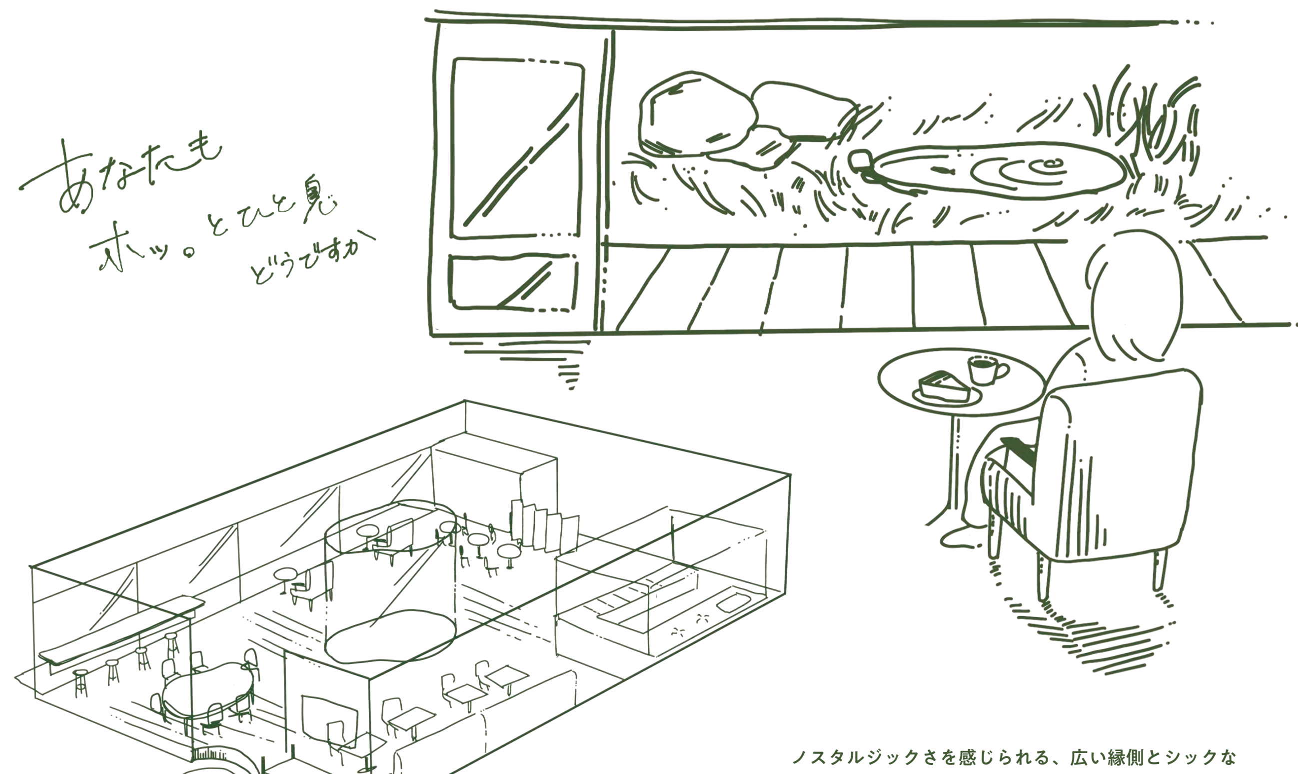
大阪市立デザイン教育研究所で日々デザインを学ぶ学生さんが、生野にやってきて空き家を探索。そこには人々の暮らしや流れていた時間を感じる空間が。どこか懐かしさを感じるノスタルジックな空間で「ゆったり、まったりできる。」そんな素敵な妄想を、デザインを学ぶみなさんが自由な発想と想像力で描いてくれます。さあ、皆さんの頭の中にはどんな妄想が広がっているのでしょうか。

＼ここがイチオシ！／

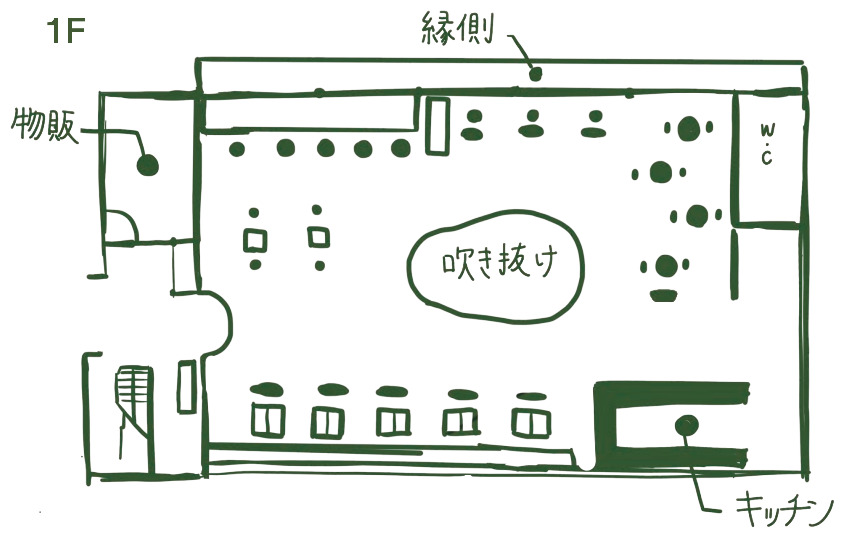
物件

- レトロな匂いが漂う雰囲気
- 光が入るのでのびのびできる
- コリアタウンまで徒歩5分
- 近くに駐車場あり

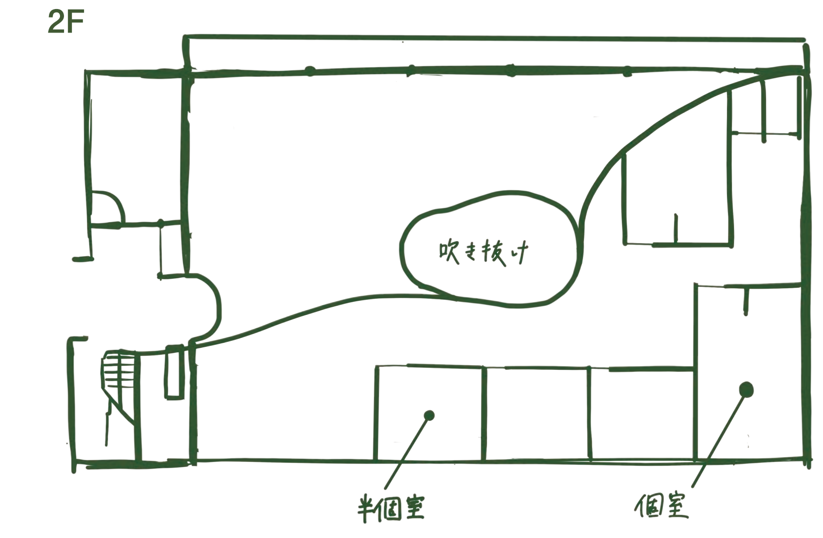
「五感で味わう、ノスタルジックな縁側カフェ」



ノスタルジックさを感じられる、広い縁側とシックな色合いの家具を意識してバランス良く配置。人と人の距離をゆったりと取り、誰もが落ち着ける空間に。



1F では、あたたかい日差しの入る縁側で懐かしさを感じながらゆっくりカフェタイムを楽しめます。オープンキッチンになっており、カフェ内はコーヒーのいい香りで包まれます。真ん中に大きく吹き抜けがあることによって開放感が生まれ広々とくつろぐことができます。物販では当店オリジナルグッズやコーヒーを販売しています。



2Fには個室をご用意しています。予約制でゆっくりお時間を堪能できます。カフェで頼んだ物を食べるのもヨシ。ワークショップをしてもヨシ。人とおしゃべりしてもヨシ。色々な使い方ができる貸しスペースです。自由な形の吹き抜けになっているので 1F の様子が一望できます。

やさしいこころ、やさしいことば。

やさしい日本語って？

「やさしい日本語」とは、普段使われている言葉を、外国人にも分かるように配慮した簡単な日本語のことです。1995年の阪神・淡路大震災では、日本にいた多くの外国人に情報が伝わらなかったことがきっかけで考え出されました。生野区では「やさしい日本語」の取り組みを通して様々なコミュニケーションが広がっています。

今里駅から徒歩10分。外国人が多く集まる中華料理店紫金城は、やさしい日本語協力店です。今回は店長の山本光一さんにお話を伺いました。

たくさんの外国人が集まる店、紫金城

『自分たちの言語で話しながら食事を楽しんでいます』

ー本日はよろしくおねがいします。早速ですが質問させていただきます。山本さんはなぜ生野区にお店を出そうと思われたのですか？

外国人を受け入れやすいっていうのが1つはあると思います。皆さんもご存知だと思うんですけど、生野っていうのは朝鮮系のルーツ、在日コリアンの方がすごくいっぱい住んでるんだけども、今のおばあちゃんとか、ひいおばあちゃんぐらいの世代の在日コリアンの人たちが、すごく努力をして、海外の方でも住みやすい環境の街にしてくれたのね。マンションを買ったりするのに、敷金・礼金とかはいらない物件が多かったりとか。海外から来たら、家賃以外のこのお金って一体何やろうって、すごくわかりにくいことですよね。日本人には当たり前のことでも、海外の方は結構、何やこれ?っていうことがいっぱいあるんだけども、そういうところを、あんまり難しく考えなくていいシーンっていうのは多い。外国から来た方々が住みやすかったり、事業を始めやすかったりするっていう風土が生野、とりわけ今里にはありますね。

紫金城　店長　山本光一さん

ー実際お店に来られるのは外国の方が多いですか？

山本さん　そうですね。日本の方は、10%もいないと思います。もともとは在日コリアンの方、もしくは韓国系の方が多い店だったけれど、中国人が7、8年前にワーッと動いた時に逆転して。

今は実は中国人がやってる中国料理の店なのに、お客さんは60%以上の人がベトナム人っていう、ちょっと不思議な店なんですけど。日本の外国人の方の移り変わりと共に、この店の客層も変わっていきます。あと、うちにしかない景色があります。2階には6テーブル…70人ほど入るテーブルがあって、それぞれ韓国人、ベトナム人、中国人で座って、自分たちの言語で話しながら食事を楽しんでいます。生活のシーンにも入り込んでいて、日曜日は中国やベトナムの方の披露宴をやらせてもらったりしてます。

日本語、中国語、韓国語の3カ国語で書かれたメニュー表

“食堂のおっちゃん“としての交流

『おっちゃんに相談してみようかなと、ちょっと思えるくらいの距離感でいたい』

ー店以外でも、地域の外国の方と交流はありますか？

ありますよ。近くのスーパーとか行っても、おっちゃんって声をかけてくれます。そういう食堂のおっちゃんでいたくて、距離を縮めてるっていうところもあるので。ただお店に来た瞬間だけ接してるんじゃなくて、地域のおじさん。彼らに何かあった時に、下支えできるっていうか、おっちゃんに相談してみようかなって、ちょっと思えるくらいの距離感でいたいなっていうのは、心がけています。まず、普段の接客でできるだけ、ちゃんと距離を縮めるっていうか。こっちから前に出て、そういう風にしてるのもあります。この辺りには、ベトナムの若い子がやってるお店とかもいっぱいあるので、そういうところも積極的に客として行ったりしてます。

山本さんが考える“やさしい日本語“

『やさしい気持ちであるように』

ーやさしい日本語協力店になる前と後で、何か変わったことはありますか？

山本さん　僕は変わりません。それは、やさしい日本語っていう、この事業が始まる前から、紫金城はやさしい日本語を使っていたから。事業より紫金城が先っていう自負があるので。でもやっぱり意識はするようになりましたね。やさしい気持ちであるようにという思いは、やはり強くなりました。

あともう1つ気を付けなきゃいけないなと思ってるのは、中国人とかベトナム人だけの方を見ないこと。生野区って生野区だけで、60カ国以上の人が住んでいるので、その方々にもちゃんと心を配ってコミュニケーションを取るようにしています。少数、韓国、中国、ベトナム人だけ見るってことは、それ以外の人をマイノリティ扱いしてる。少数派扱いしてるところだから、僕はそれが嫌なので。彼らもちゃんと少数派じゃない。そういう意味では、日本語はとても大事。そこにいるいろんな人が分かるように、しっかり日本語で話すようにしています。

紫金城2階　ここで宴会や披露式の披露宴などが行われる

『やさしい日本語で、欠けた部分にやさしい気持ちの橋をかける』

ー山本さんの考える、“やさしい日本語“とはなんですか？

山本さん　やさしい日本語というのは、やさしい気持ちで話しかけていくこと。あとは、耳を傾けてあげること。結構、意識してないと難しいんだよね。たとえばお客さんに、「松本さん」って呼ばれたら、返事します。なぜならこの店に日本人は僕しかいないから。僕、山本やのにな“って思わないで、“この人は店員さんって呼ばずに、個人の僕とちゃんと親しくしようとしてくれてんねんな“って思うと、「松本さん」って呼ばれたことも嬉しくなる。ただ呼ぶだけなら、「すんません！」でもいいわけでしょ。それをわざわざ、僕個人に話しかけたいという気持ちがあるから、出てきた言葉が「松本さん」だった。そう思うと、すごく豊かな気持ちになるし、そういう風にいつも転換していくっていうのが大事かな。ひとつひとつ良い方向に考えていくというか、ちょっと欠けてるところに橋をかけてあげたり、継ぎ足しをしてあげることが大事。今はやさしい日本語って、協力店だけが頑張って使ってるなと思うところはあります。本当は、やさしい日本語なんていう言葉はなくていい。本当は必要なものが、意識していないとそこに存在しないから、こうやってわざわざ事業を始めないといけない。みんなの心の中にあればそれでいいだけの話。それでも、こうやって店にポスターを貼ったりバッジをつけたりすることで、よそでやさしい日本語の取り組みに触れた時「あのポスター、紫金城に貼ってたよね」「紫金城のおじさん、バッジつけてたよね」って思ってくれたら何かにつながるかなと思います。

紫金城
大阪市生野区新今里 3-10-26　090-9058-1773
営業時間 :11 時～23 時　定休日 : 水曜日

生野のものづくりと暮らしと人と。

ランドセルラヂオ

ランドセル工房生田とは

ランドセル工房はその名の通りランドセルを作る会社。1950年に生野区で鞄製造を開始した生田ランドセル工房。切り出しから完成まで全ての工程を自社で行なっています。そんな生田さんに取材をしました。

カバンに詰めた想い

生田ランドセルにはたくさんの種類の皮を取り扱っており、6年間使用するものであるランドセルに使用するので傷のある場所を避けつつできる限り多くのパーツを一枚の革から裁断するそうです。ランドセルに使用できない皮はワークショップなどで再利用していると聞きました。

さて、そんな傷ひとつない状態のピカピカのランドセル。綺麗に6年間使えた方はもちろん壊してしまった思い出がある方もいらっしゃると思います。生田ランドセル工房では6年間完全無償修理保証というサービスがあります。『本当にいいものを最後まで使う。』という考えの元、ものを大切にすることの大切さをランドセルと学んで一緒に成長していくと考えているそうです。

コソコソ小話
ランドセルってどう数えるか知ってる？
一本二本と「本」で数えるんだって

ランドセルと私

このコーナーはランドセルとの思い出を紹介します。

上田さん
私立の小学校に通っていて学校指定のランドセルを使っていたので、いろとりどりのランドセルを使っている他の小学校の子が羨ましかったそう。でもみんな同じランドセルだからこそ汚れや傷がわかりやすくて面白かった。

金沢さん
当時のランドセルのカラーバリエーションが少なくネイビーのランドセルを使っていましたランドセルとたくさん遊びました。ハンマー投げをして遊んでたんですけどそれでも壊れなかったのでランドセルの耐久性に驚きました。

ここからはアンケートで集めたエピソードです。

幼なじみの女の子と似た色のランドセルだったので、一緒にエレベーターに乗った時に乗り合わせたおばあさんがかわいいねと言ってくれたのが思い出です。

6年間毎日使っていたが新品に見えるほど綺麗に使うことができた。

自分の身体の成長を感じたよ。

重かったけどしっかり守られてる感あって良かった。

ソリにして雪の上を滑っていた

お便りコーナー

オーダーメイドランドセルを始めた理由はなんですか？

オーダーメイドランドセルは僕が入社する前からセレクトオーダーが出来るようになっているんですけど十数年ほど前に赤色のランドセルが欲しいという男の子のために赤色のラインが入ったランドセルを特別に作ったのが始まりで、そこからセレクトオーダーが始まったと聞いています。

どのように軽量化されているのですか？

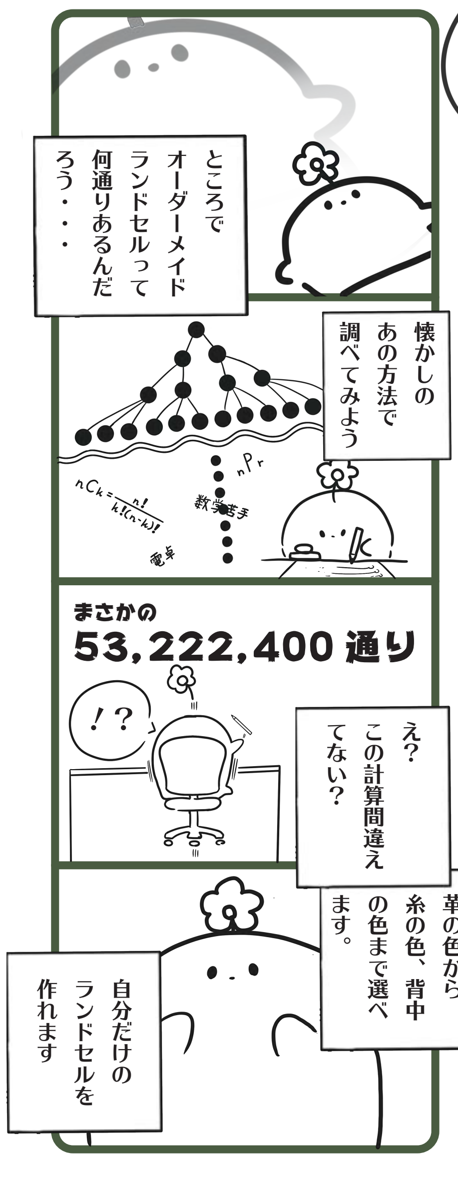
昔はランドセルの芯材がボール紙と言って紙を何枚も重ねていたので今より重かったんですけど今も同じ紙なんですけど圧縮されているものを使っているので軽くなっています。
あとは金具の部分がアルミになったりして軽くなっていますね。

知りたいランドセル

ランドセル工房生田さんではワークショップや「月一見学会」などを開催しており、ランドセルについて知りたい！どうやって作っているの？など気になる人は直接革に触れて体験、見学ができます。

編集後記

取材に伺って工場を見せていただいたりお話を聞いて、ランドセルへの想いがひしひしと伝わってこの記事に載り切らないほどです。それと同時に小学生の頃を思い出してアルバムを開いてみたりランドセルを買ってもらった時のことを思い出して自分の成長を感じました。



「いくの」を題材にした句大募集!!

桃谷ロイターでは、「いくの」を題材にした俳句を募集しています。
暮らしのこと、お商売のこと、食べ物、街並み、ご近所付き合いなどなど、「いくの」にまつわることを俳句に詠んでみませんか?
季節や「いくの」を感じる作品を選ばせていただき、紙面にてご紹介いたします。メールまたはハガキにて、ペンネームを付けてご応募ください。

＜宛先＞
E-mail : momodaninoneko@gmail.com
（件名「いくの作句道場の件」）
〒544-0034 大阪市生野区桃谷 2-10-21
（桃谷ロイター実行委員会 宛）